

A—84 大分県におけるツルムラサキ 生育状況について

別府大短大 須東 妙子

1. ツルムラサキに関する各種の研究を開始して以来10年余、その結果はそれぞれの機会において発表した。元来この植物は南方地域の原産であるので、研究に着手するに当って、我国の気候風土でも栽培可能であることを確めたことは勿論であるが、栄養野菜として更に栽培実験をする必要を感じたので、その結果を報告する。

2. ツルムラサキが我が国において、北は東北地方まで栽培可能なることを知ったが、更に下記の点を明確にする必要を感じ、1965年春より大分県農業試験場、及び別府大学内において、栽培実験を行なった。

(1)播種時期の選定：5月中旬を適期として、必要ならば20日間隔に播種、8月上旬までを可とする、

(2)植栽距離の決定：畦巾 60 cm、株間 30 cm、程度とし、5～20 粒まで播種する。

(3)肥料試験：

成分	窒素	1-2kg	肥料名	硫安	10kg
	リン酸	1kg		過石	6kg
	加里	1.2-2kg			
	石灰	20kg		消石灰	20kg

(4)管理：播種，間引，中耕，除草，薬剤散布，支柱立て

(5)生育調査：発芽状況，開花時期，分枝状況

(6)収量及び収穫期の調査：収穫の適期，収量，収穫物の処理

(7)原価計算：労賃，材料肥料代，栄養分析。

以上の実験結果を得たので，これを報告する。